

## 研究主題「自ら学び、自ら読む力を身に付ける児童を育成する指導法の工夫

### －物語を読むための学び方の指導－

東京都教職員研修センター研修部教育経営課

三鷹市立南浦小学校 教諭 前田智子

#### I 研究のねらい

経済協力開発機構による平成 15 年実施の PISA 調査(生徒の学習到達度調査)の結果から、我が国の児童の「読解力」に課題があることが明らかとなった。これを受けて平成 17 年、文部科学省は読解力向上プログラムを発表した。「読解力」について、国語科を中心としつつ、各教科、総合的な学習の時間などを通じて定着を図ることを目指している。国語科においても、児童が「読む力」を身に付けることは喫緊の課題である。

児童が読む力を身に付けるには、主体的な学習が効果的であると考え。主体的な学習は、学習指導要領の「自ら学び、自ら考える力を育成すること」につながると言える。しかし、主体的な学習とは児童の主体性だけに頼る学習ということではない。指導により児童一人一人に学び方を身に付けた上で、児童が主体的に学習するということである。

そこで、児童が発達段階に応じて計画的・系統的に学び方を習得し、自ら学び、自ら読む力を身に付けていくことができる指導法の工夫を研究のねらいとした。

なお、本研究では物語に視点をあてた。物語を通して登場人物や作者の考え方・生き方に触れ、自分の経験などと比べることは、思考力を高める上で有効であるにとらえた。

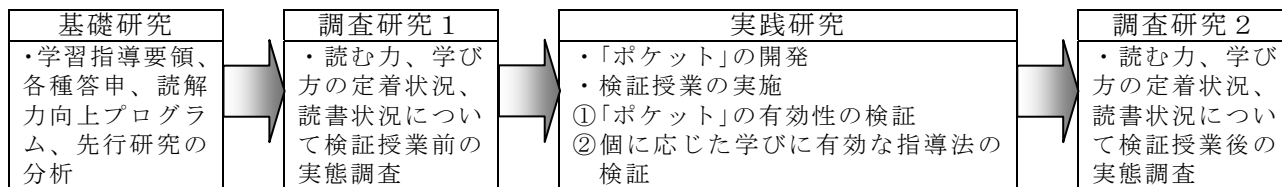
#### II 研究の内容と方法

##### 1 研究仮説

- |   |
|---|
| (1) 児童が学び方を学び、自ら考えて物語を読んでいくことで、読む力が身に付くだろう。<br>(2) 学び方は、児童が意識し、自ら選んで繰り返し活用することで定着していくだろう。 |
|---|

##### 2 研究の内容と方法

- (1) 児童が学び方を、学力を構成する資質・能力の一つとして意識し、発達段階に応じた学び方を身に付けるための手だてとして、「読むことの学び方ポケット(物語)」を開発する。
- (2) 児童が「読むことの学び方ポケット(物語)」(以下「ポケット」)を個に応じて活用し、読む力を身に付けるための指導法の工夫を図る。



##### 3 基礎研究の結果から

###### (1) 本研究における定義

###### 物語を読む力

- |                 |               |
|-----------------|---------------|
| ○ 内容を正確に読み取る力   | ○ 叙述に即して想像する力 |
| ○ 自分の考えをもち、伝える力 | ○ 読書生活に広げる力   |

※ 物語の叙述を分析し、読み取る。人物・場面・作品を比べるなどして自分の解釈を加え、想像し、味わう。自分の知識や経験に位置付け自分の考えをもち、他者の考えと比べて深めたり広げたりする。自分の考えを他者に伝えるために、的確に表現する。日常の読書生活につなげ、読書する。以上すべてが「物語を読む力」である。(補助資料③参照)

物語の学び方

- 内容を正確に読み取る力を身に付けるための学び方（問題を解決する方法）
  - 叙述に即して想像する力を身に付けるための学び方（問題を解決する方法）
  - 自分の考えをもち、伝える力を身に付けるための学び方（自分の考えをもつ方法・考えを表現する方法）
  - 読書生活に広げる力を身に付けるための学び方
  - 見通しをもって学習するための学び方（課題を発見する方法）
  - 物語を読む力を身に付けるために必要な言葉や技能（知識・技能）
- ※ 児童が確かな学力を身に付けるためには、教師主導の授業だけでなく、児童が自ら学び自ら考える主体的な学習が必要である。ただし、児童が自分に合った学び方を活用して主体的に学習するためには、教師の指導により、児童個々が多様な学び方を身に付ける必要がある。
- ※ 学び方も確かな学力を構成する資質・能力の一つである。（補助資料③参照）
- ※ 「物語を読む力を身に付けるために必要な言葉や技能」は、他の5項目を身に付ける過程で覚え、さらに新たな学習で活用されるべき言葉や技能である。自ら学び、自ら考える力の育成と、基礎的・基本的な知識・技能の育成は総合的になされることが必要である。

(2) 「読むことの学び方ポケット（物語）」について

- 児童が学び方を、学力を構成する資質・能力の一つとして意識し、発達段階に応じた学び方を身に付けるための手だてとして、「ポケット」を開発する。
- 「ポケット」は、自ら読む力を身に付けるために有効な言語活動、読む際に着目すべき観点、読むために必要な言葉の知識などを、児童が学習する際自分で確認するためのものである。
- 「ポケット」には、児童本人が考えながら新しい学び方を記入していく欄を設ける。児童は自分で気付いたことを記入したり、特に注目したいことに印を付けたりして、児童固有の「ポケット」を作り上げていく。
- 「ポケット」は、各単元で使用する学習シートとは別に、児童各自がファイルして保存し、年間を通じて、必要に応じて繰り返し活用するものである。
- 「ポケット」は、毎年1冊ずつファイルにとじて、継続して活用できるようにする。6年間で6冊のファイルになる。

4 検証授業

(1) 「読むことの学び方ポケット（物語）」を活用した授業の一年間の流れ

4 月          3 月	年度始め	前学年までに学んだ学び方を想起する時間を1時間設定する。児童は想起した学び方を「ポケット」No.1「〇年生までに、物語の学習でどんな学び方を覚えましたか。」(補助資料①参照)に記入する。既習の学び方は、新しい単元を学習する際児童が選んで活用していく。	通年
	単元 単元 単元 ・ ・	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単元を学習する際、児童は新しい学び方を「ポケット」No.2「登場人物の心情を想像しましょう。」No.3「この本を読んでどんなことを考えましたか。」No.4「友達と話し合っって自分の考えを広げたり深めたりしましょう。」(補助資料①参照)のように記入し、ファイルに保存していく。</li> <li>・各単元ごとに、「ポケット」を追加していく。児童は「ポケット」を見ながら既習の学び方、新しい学び方を活用して学習する。</li> <li>・学習中に新たに気付いた学び方や自分で特に活用したい学び方等、児童個々が書き入れていく。</li> </ul>	
	年度の終わり	1年間に積み重ねた「ポケット」を見ながら、学んだ学び方を確認し、また、読んだ本について友達と話し合う時間を、1時間設定する。	<p>「ポケット」No.5「本は友だち」(補助資料①参照)に、1年間に読んだ本を記録する。</p> <p>&lt;例&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・単元の学習中に並行して教材に関連する本を読んだ場合。</li> <li>・単元の最後に学習の発展として教材に関連する本を読んだ場合。</li> <li>・図書の時間、日常生活で本を読んだ場合。</li> </ul>

(2) 「表現の工夫を見つけよう」(教材「川とノリオ」教育出版6年上)の授業

① 単元の展開

時	学習活動	学び方
1	○ 学習の見直しをもつ。	○ 学習計画表を作成する。学習計画表には毎時の自己評価欄を設ける。
2	○ 既習の学び方を想起し、新しい学び方を学ぶ。 ○ 自分で使う学び方を選ぶ。(心情曲線・吹き出し・書き込み・日記から)	○ 心情を想像する観点について、既習の学び方(感情を表す言葉・行動・言葉・情景)を想起し、「ポケット」No.2に記入する。 ○ 新しい学び方、心情曲線を学び、「ポケット」No.2に記入する。 ○ 「ポケット」No.1,2から、登場人物の心情を想像する学び方を選ぶ。
3	○ 叙述を正確に読み、叙述に即して登場人物の心情を想像する。	○ 「ポケット」No.2を参照しながら個人で読み取り、想像する。 ○ 心情を想像する手掛かりとなる表現の工夫で、気付いた学び方(繰り返し・比喩など)を各自「ポケット」No.2に記入する。
4 5	○ 読み取ったこと、想像したことを基に友達と話し合い、自分の考えを広げたり深めたりする。	○ 「ポケット」No.4を参照しながら叙述に即して友達と話し合い、自分の考えを広げたり深めたりする。 ○ 登場人物の心情を想像する手掛かりとなる表現の工夫で、気付いた学び方を出し合い、新しい学び方として「ポケット」No.2に記入する。
6	○ 最も感じたことを中心に作品の紹介文を書き、自分の考えを伝える。	○ 「ポケット」No.3を参照しながら、読み深めたことと自分の知っていること、他の本から知ったことを合わせ、自分の考えをまとめて書く。
7	○ 関連した作品を読む。	○ どんな本を読みたいか考え、「ポケット」No.3に記入する。 ○ 関連した本を選び、読み、「ポケット」No.5に記入する。

② 考察

<学級全体の学びの状況>

「ポケット」の活用						読む力の変容					
A 「ポケット」を活用し、大きく変容が見られた。 B 「ポケット」を活用し、変容が見られた。 C 変容が見られなかった。 (%)						A 優れている。 B 到達している。 C 支援が必要である。 (%)					
「ポケット」No.2個人で読む			「ポケット」No.4友達と深める。			単元学習始め			単元学習終わり		
A	B	C	A	B	C	A	B	C	A	B	C
16	61	23	28	62	10	3	77	20	26	64	10

- 「ポケット」No.2「登場人物の心情を想像しましょう。」を活用するよう助言した結果、児童は叙述の中から心情を想像する手掛かりを探ることができるようになった。また、表現の工夫に気を付けて読むことができるようになった。
- 「ポケット」No.4「友達と話し合って自分の考えを広げたり深めたりしましょう。」を活用するよう助言した結果、児童は根拠を叙述に求めて話し合う活動がよりよくできるようになった。また、自分の考えを広げたり深めたりできるようになった。
- 単元を通して「ポケット」を活用するよう促した結果、叙述に即して読み取れなかった児童が叙述に着目するようになった。また、叙述と叙述をつなげて想像できなかった児童が叙述の関連に着目するようになった。さらに、自分の考えをもち、書くことができるようになったなど、読む力の変容が見られた。

<個人の変容>

A児：叙述を読み取り、想像し、自分の考えをもつことができるようになった。

	授業での変容	教師の支援
2時間目	心情曲線に心情を書き込めない。根拠となる叙述のみ書き込む。心情曲線が難しいと判断し、既習の学び方の中から吹き出しを選ぶ。	心情曲線の使い方について個別に指導した。
3時間目	「ポケット」No.2「登場人物の心情を想像しましょう。」を見ながら、想像する根拠となる叙述に印を付けて読んだ。その後吹き出しに心情を書き込んだため、叙述に即して想像できた。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">                     &lt;吹き出しの一つに書いたノリオの心情の想像&gt;                      「戦争のことなどつらい事はなにも知らず、日ざしを浴びて川と一日中遊んで幸せに暮らしている。」                 </div>	「ポケット」No.2を参考に、心情を想像する根拠となる叙述を探してから想像するように助言した。
4,5時間目	「ポケット」No.4「友達と話し合って…」に従って友達と話し合う中で、上段に書かれている母ちゃんの心情とノリオの心情を比べて考え出した。「自分の考え」の項目を作り、吹き出しの横に書いた。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">                     &lt;吹き出しの横に「自分の考え」として書いたもの一例&gt;                      「母ちゃんはノリオと反対で、不安なことや悲しいことがたくさんあった。でも、ノリオは何も知らず、暮らしていた。川と遊んでいて、楽しくて幸せだった。」                 </div>	4時間目の振り返りに「みんなの意見を聞いていると確かにそうだなあと思い、いろいろ参考になった」とあったので、「どんなところが参考になりましたか。具体的に書きましょう。」と助言を書き添えた。

「自ら学び、自ら読む力を身に付ける児童を育成する指導法の工夫  
 ―物語を読むための学び方の指導―

B児：新しい学び方に気付き、注目して深く読み取った。

	授業での変容	教師の支援
2時間目	心情曲線の活用法を理解し、自分の学び方として選ぶ。	振り返りに「心情曲線のやり方をよく理解しましたね。本番は時間があるから想像した心情をよりくわしく書けますね。」と助言を書き添えた。
3時間目	<p>「ポケット」No.2「登場人物の心情を想像しましょう。」を見ながら、心情を想像する根拠となる叙述に印を付けて読む。全員で決めた場所以外にも心情の表れている箇所を見付け、折れ線グラフを作る。グラフを作ってから、その横に、前の場面と比べながら心情を書き込む。</p> <p>&lt;心情曲線に書き込んだノリオの心情&gt;          「前はくりのげたも引き上げられたが、今回はすべて流れてしまい、悲しいという気持ち」          「少し大きくなったノリオは、大好きな母ちゃんが帰ってきてほしい気持ちでいっぱい。それから、母ちゃんが帰ってこないのですごくさみしい。」</p>	自分で「ポケット」No.2を見ながら学習を進めている点を褒めた。
4,5時間目	<p>「ポケット」No.4「友達と話し合って自分の考えを広げたり深めたりしましょう。」に従って友達と話し合う中で、繰り返しの表現に気付く。繰り返して言う程強い心情だから、母親は死んでいると分かってもなお、帰って来てほしいと思っているのだと、友達に主張する。新しい学び方として「くり返しの表現」と学び方ポケットに記入し、赤で印を付ける。</p> <p>&lt;ノリオの心情の横に書き足したこと&gt;          「(母ちゃん帰れようと)二回くり返すほど」</p>	「どんどん」などの表現と、繰り返しの表現との違いを質問して来たので答えた。

### 5 調査研究に見られる児童の変容

実態調査は検証授業前の6月と、検証授業後の9月に実施し、学年の実態と検証授業による児童の変容を明らかにした。(補助資料④参照)

- 読み取ったことを基に自分の考えをもち、書く際、自分の生活や体験と比べて詳しく書くことができる児童が増えたなどの変容が見られた。
- 既習の学び方を意識していなかった児童が、いくつかの学び方を覚えていた。また、サイドラインを引くことができなかった児童が引けるようになったなどの変容が見られた。

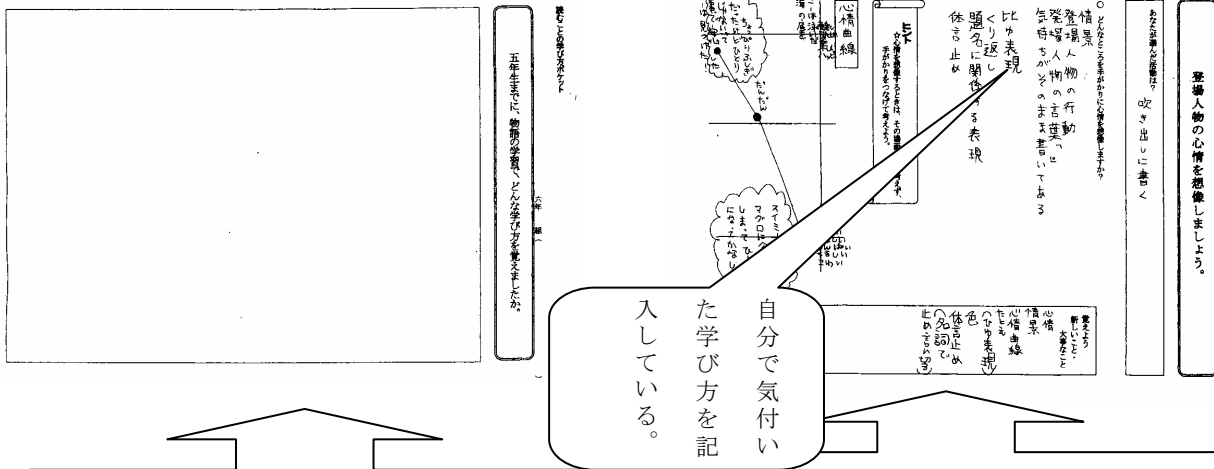
### Ⅲ 研究の結果と考察

- 第6学年について、「ポケット」が、児童が自ら学び、読む力を身に付けていく上で有効であることを検証した。「ポケット」に全員が記入する学び方の他、児童一人一人が新たに気付いた学び方を記入したり、こだわりたい学び方に印を付けたりすることで、児童固有の、より活用しやすい「ポケット」となった。自分に合った学び方を見つけた児童は、9月の授業で次の物語を読む際にも、その学び方を活用して読んだ。
- 児童が個に応じて「ポケット」を活用した指導が、読む力を身に付けていく上で有効な指導法であることを第6学年で検証した。(上記検証授業考察参照)
- 児童が発達段階に応じて学び方を身に付けていくために「ポケット」が有効であると検証できたので、第1学年から第6学年まで同一書式の「ポケット」を開発した。
- 教師の参考資料として、学習の過程で児童が新たな学び方を見つけた時、教師が発展的に対処するための「学び方の一覧表」を作成した。(補助資料③参照)

### Ⅳ 今後の課題

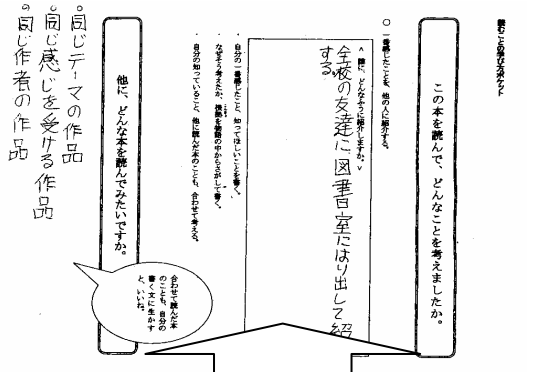
- 1 物語以外の「読むこと」の教材についても、「ポケット」を作成する。
- 2 現行及び過去の学習指導要領・各社教科書・先行文献を参考にし、学び方の一覧表を作ったが、学び方はこれですべてではない。今後も学び方について文献・新たな指導法などを研究し、表に追加していく。

「読むことの学び方ポケット（物語）」（検証授業で活用したもの）

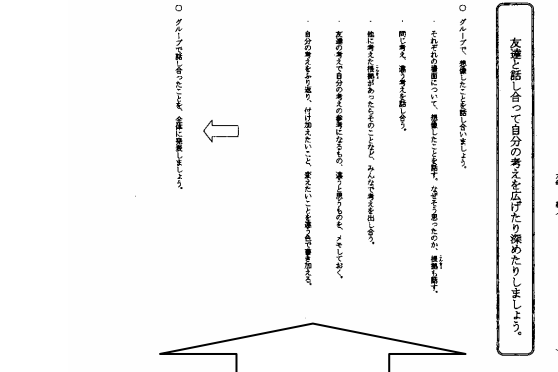


No. 1  
年度の始めに、学び方を想起する。

No. 2  
正確に読み取り、想像する。



No. 3  
自分の考えをもつ。読書に広げる。

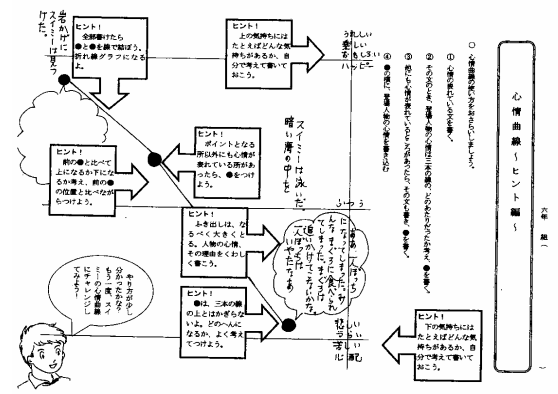


No. 4  
話し合いの仕方を学ぶ。（本来既習の物）

表 1

学年	本は読んだか	読んだ本の題名	感想	学び方
1				
2				
3				
4				
5				

No. 5  
通年使用。年度末に読んだ本を交流する。



個別支援用  
心情曲線の使い方を補足説明する。

「読むことの学び方」(物語)の一覧表(抜粋)

※ 詳しくは、成果物を参照のこと。

※ 吹き出しは、表の説明。

※ 「物語を読む力」「物語の学び方」については、本文を参照のこと。

右に進むほど発達段階が上がる。

第3・4学年に続く

学習指導要領「読むこと」の目標

各学年でつけたい読む力

学習指導要領 (抜粋)	第1・2学年	
読む力	書かれている事柄の順序や場面の様子などに気付きながら読むことができるようにするとともに、楽しんで読書しようとする態度を育てる。	
内容を正確に読み取る力	順序を考えながら内容の大体を読む。	
叙述に即して想像する力	場面の様子などについて、想像を広げながら読む。語や文のまとまりや内容、響きなどについて考えながら声に出して読む。	
自分の考えをもち、伝える力		
読書生活に広げる力	易しい読み物に興味をもち、読む。	

「物語を読む力」

「物語の学び方」

学習指導要領「読むこと」の内容を、「物語を読む力」により分類

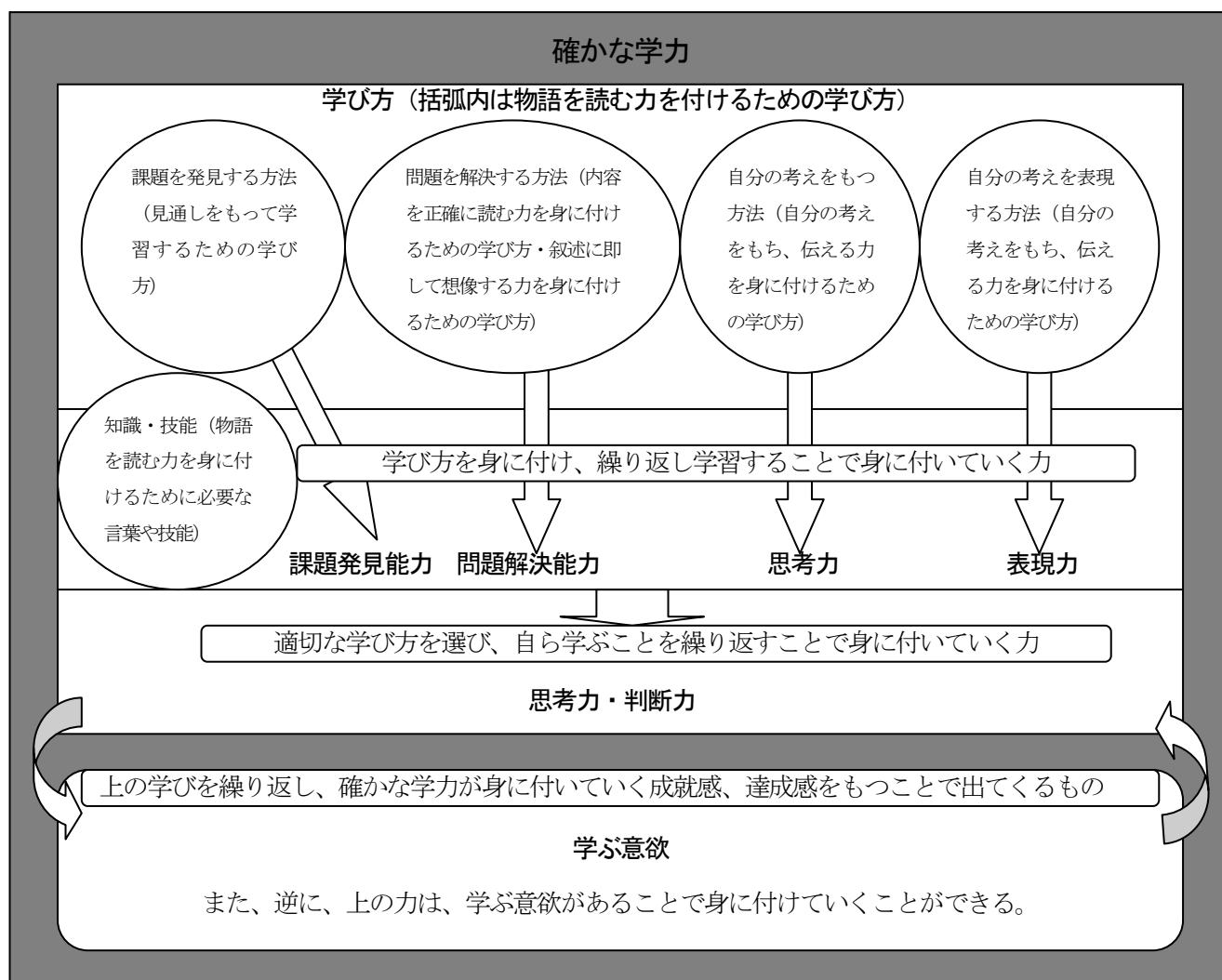
【読む力をつけるための学び方】

内容を正確に読み取る力を身に付けるための学び方	<ul style="list-style-type: none"> <li>・内容の大体を考えながら、教材を目で追い、範読を聞く。</li> <li>・内容の大体を考えながら、正しく行をたどり、語や文をつなげて音読する。</li> <li>・登場人物の様子や出来事の順序をとらえるため、挿絵や写真を利用する。</li> <li>・誰が何をしたか理解するため、動作化する。</li> <li>・出来事の順序をとらえるため、動作化する。</li> <li>・表現の仕方に気付くため、好きなところを</li> </ul>	<p>発達段階に応じた学び方 (点線で区切り、横に見ていく。)</p>
叙述に即して想像する力を身に付けるための学び方	<ul style="list-style-type: none"> <li>・登場人物の様子などを具体的にイメージする。</li> <li>・登場人物の様子や出来事を想像するため、挿絵や写真を利用する。</li> <li>・登場人物の気持ちを考えながら、「」の読み方に着目して音読する。(全員で一斉に読む・一人で読む・二人または少人数で読み、批評し合う。)</li> <li>・場面の様子や登場人物の気持ちを考えながら、役割分担をして音読し、作品の面白さを味わう。</li> <li>・場面の様子や登場人物の気持ちを想像するため、好きなところを絵にかく。</li> </ul>	
	<p>以下</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「自分の考えをもち、伝える力を身に付けるための学び方」</li> <li>「読書生活に広げる力を身に付けるための学び方」</li> <li>「見通しをもって学習するための学び方」</li> <li>「物語を読む力を身に付けるために必要な言葉や技能」</li> </ul>	

### 「読む力」のとらえ方

「読む力」	学習指導要領 (抜粋)	読解力向上プログラム
・内容を正確に読み取る力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・内容の大体を読む</li> <li>・文章を正しく読む</li> <li>・内容を的確に押さえて読む</li> <li>・声に出して読む</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報の取り出し (テキストの事実を切り出し、言語化・図式化)</li> </ul>
・叙述に即して想像する力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・想像を広げながら読む</li> <li>・叙述を基に想像しながら読む</li> <li>・優れた叙述を味わいながら読む</li> <li>・声に出して読む</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・テキストの解釈 (推論・比較して意味を理解)</li> </ul>
・自分の考えをもち、伝える力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の考えをまとめ、一人一人の感じ方について違いのあることに気付く</li> <li>・自分の考えを明確にしなが読む</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・熟考・評価 (自分の知識や経験に位置付けて理解・評価)</li> </ul>
・読書生活に広げる力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・読み物に興味をもち、読む</li> <li>・必要な図書資料を選んで読む</li> <li>・目的に応じて読む</li> <li>・必要な情報を得るために読む</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼少期からの読書習慣の必要性</li> </ul>

### 物語を読む力を付けるための学び方と「確かな学力」のとらえ方



## 「読む力」についての児童の実態調査

### 1 実態調査

- (1) 調査日時 学年全体の実態調査 …平成18年6月26日  
 検証学級の事後実態調査…平成18年9月4日
- (2) 調査方法 教員研究生作成による質問紙法  
 学年全体の実態調査(6月) …光村教科書6年上「カレーライス」より  
 検証学級の事後実態調査(9月)…東京書籍6年上「風切るつばさ」より
- (3) 調査対象 三鷹市立南浦小学校第6学年児童  
 学年全体の実態調査(6月)…88名 検証学級の事後実態調査(9月)…30名

### 2 学年全体の実態調査結果(調査対象88名・6月実施)

- 内容を正確に読み取る力は、「正確に読み取る」「ほぼ正確に読み取る」の合計が55%である。半数の児童に、内容を正確に読み取る力が十分身に付いていない。
- 読む力に必要な言葉の理解は、「十分理解している」「ほぼ理解している」の合計が66%である。約3分の1の児童は、読む力に必要な言葉の理解が十分ではない。
- 既習の学び方を「適切に使える」「ほぼ適切に使える」の合計は55%である。既習の学び方を「分かっている」「ほぼ分かっている」の合計は41%である。ほぼ半数の児童は、学び方を十分身に付けていない。
- 「自分の考えをもてる」「ほぼ自分の考えをもてる」の合計は51%である。自分の考えをもつ力が、半数の児童に十分身に付いていない。

### 3 検証授業学級の実態調査結果(調査対象30名・9月実施)

- (1) 内容を正確に読み取る力 (%) (2) 読む力に必要な言葉の理解 (%)

	6月		9月	
正確に読み取る	7	53	67	74
ほぼ正確に読み取る	47		7	
やや正確に読み取れない	20	47	13	26
正確に読み取れない	27		13	

	6月		9月	
十分理解している	56	73	33	70
ほぼ理解している	17		37	
理解していない	27	27	30	30

#### (3) 既習の学び方を使う力 (%)

	6月		9月	
適切に使える	30	77	46	82
ほぼ適切に使える	47		36	
やや適切に使えない	10	23	14	18
適切に使えない	13		4	

#### (4) 既習の学び方の知識 (%)

	6月		9月	
分かっている	7	50	10	84
ほぼ分かっている	43		74	
やや分かっていない	20	50	3	16
分かっていない	30		13	

#### (5) 自分の考えをもつ力 (%)

	6月		9月	
自分の考えをもてる	37	57	37	87
ほぼ自分の考えをもてる	20		50	
やや自分の考えをもてない	37	43	10	13
自分の考えをもてない	6		3	

#### (6) 読書時間 (%)

	6月	9月
2時間以上	2	10
1時間以上2時間未満	4	13
30分以上1時間未満	17	50
30分未満	6	27
読書はしない	1	0

### 4 補足説明

- 設問(1)で、「ほぼ正確に読み取る」とは、正しい内容を読み取るが、根拠を示すことができないことを指す。
- 設問(2)で、「ほぼ理解している」とは、指示語が指し示す言葉を探することができるが、文に当てはまる形に直せないことを指す。
- 設問(3)で、「ほぼ適切に使える」とは、既習の学び方を誤りなく使えるが、使うべき場所で見落としが複数あることを指す。
- 設問(4)で、「ほぼ分かっている」とは、既習の学び方を一定数覚えていることを指す。
- 設問(5)で、「自分の考えをもてる」とは、物語と自分の生活体験、価値観を比べて考えをもち、他者に分かるように書くことができることを指す。
- 設問(5)で、「ほぼ自分の考えをもてる」とは、物語の内容から自分の考えをもち、他者に分かるように表現できること及び、物語の内容から離れて自分の生活体験、価値観を他者に分かるように表現できることを指す。

### 5 考察

- 設問(1)・・・内容を正確に読み取る力は身に付いている。
- 設問(2)・・・読む力に必要な言葉の知識は、十分身に付いているとは言えない。繰り返し学習し、身に付けていく必要がある。
- 設問(3)(4) 既習の学び方の知識は身に付き、既習の学び方を活用できるようになっている。
- 設問(5)・・・自分の考えをもち、表現することができるようになっている。
- 設問(6)・・・読書時間が増えている。  
 読書の内容に、7月に学習した教材と同一作者の作品、同一テーマの作品が多く見られる。